

歯科技工士、歯科医師の立場で総義歯臨床 40 年を振り返って

河原英雄・松岡金次

歯科補綴の原点とも言える総義歯は一般臨床ではルーティンで大変重要にも関わらず、この 2~30 年は大学の教育以外では一部の開業医だけで語られている様なジャンルでした。

その後、高齢社会となった我が国をスタートに「噛むことと健康が」世界中で広く提唱される様になり、訪問診療や介護の現場でも日の目を見るようになり、熱く語られるような時代になってまいりました。

今回は「前歯でも噛める総義歯」にこだわって私と 40 年以上コラボしている歯科技工士の松岡金次先生と共に総義歯の技工操作、審美性、そして機能性について過去を回想しながら歯科技工士、歯科医師双方の立場でお話を進めたいと思います。歯科技工士の先生方と共に楽しくディスカッションしたいと願っています。